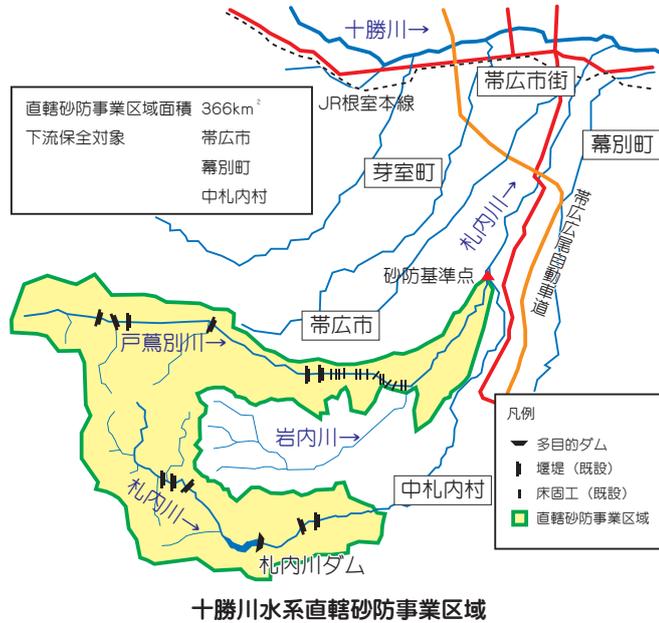


## 地域を災害から守る

札内川における砂防事業は、昭和29年の洞爺丸台風による災害が契機となって計画立案され、昭和30年に営林局及び北海道によって最初の砂防事業が着手されました。直轄砂防事業は、昭和36年度に調査が開始され、その後、昭和47年から直轄砂防事業に着手し、砂防堰堤及び床固工の整備による流出土砂の調節を目的とした水系砂防を進めています。



### 土砂災害と砂防計画

年	土砂災害と砂防計画
昭和30年	7月 低気圧(降雨量202mm)により、発電ダム埋没(約520戸停電)、橋梁流出(117戸孤立)、家屋被害110戸、農業被害2,203ha
昭和36年	札内川流域が直轄砂防区域に指定
昭和37年	8月 台風10号(降雨量269mm)により、札内川上札内橋一部流出、家屋被害24戸、農業被害108ha
昭和47年	直轄砂防事業が始まる 9月 台風20号(降雨量388mm)により、中札内村での土砂被害、家屋被害241戸、農業被害1,532ha。
昭和56年	4月 十勝川水系札内川砂防基本計画書 策定 8月 台風12号(降雨量337mm) 家屋被害75戸、農業被害5,870ha
平成23年	9月 台風12号(降雨量433mm) 札内川左岸河岸保護工被災
平成28年	8月 台風10号(降雨量532mm) 砂防施設被災、堤防決壊
令和2年	4月 十勝川水系札内川砂防基本計画書 改定



土砂により埋没した発電ダム(昭和30年7月)



土砂堆積した中札内村の農地(昭和47年)



流出土砂を捕捉した戸笥別川第5号砂防堰堤(平成28年8月)



土砂堆積した拓成湖広場(平成28年8月)

## 砂防施設の機能と効果

### ●砂防堰堤(さぼうえんてい)

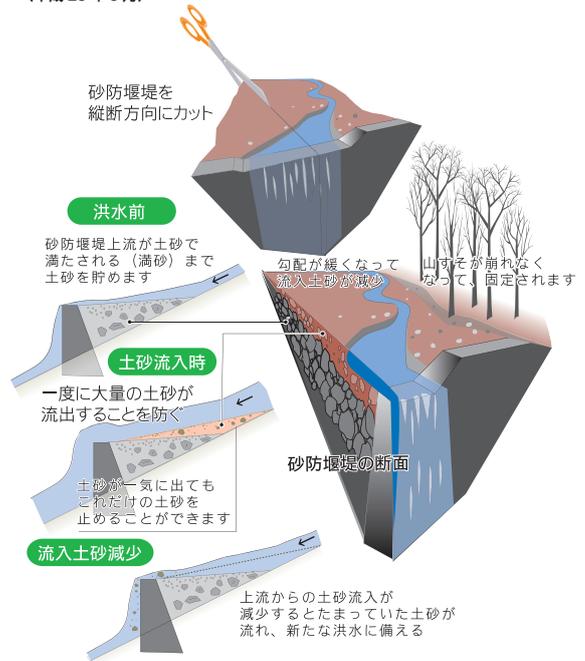


砂防堰堤は、その背後に土砂を貯めることで、川底の浸食や山腹の崩壊を防ぐとともに、一度に大量の土砂が流出することを防ぎます。最近ではスリット型(透過型、写真=上)の砂防堰堤がつけられており、ふだんは土砂が流れ、洪水時に土石流を食い止めることができます。

### ●床固工(とこがためこう)



床固工は、河床の浸食や河道に堆積している不安定土砂の再移動を抑えるとともに、河道の乱れを整えて河岸の浸食や崩壊を防ぐことを目的としています。特に川が急流の場合にはいくつもの床固工をつくる「床固工群」と呼ばれる方法をとります。



砂防堰堤の効果